1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	紀三井寺苑グループホーム	【ユニット名: II号館】	
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、家族様が安心して、個々の目標・希望に応じた生活が送れるよう支援させていただいています。活気と楽しさが溢れる空間を提供するために、毎月さまざまな行事やレクリエーションを実施しており、利用者様自身で参加を選択して頂くことで自立心の向上に努めています。これまでの在宅生活の延長と捉え、炊事洗濯のお手伝いなど通じて身の回りのことはなるべく自己にて行って頂けるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3070101518-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成27年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の特別養護老人ホームと同敷地内にある2棟の平屋のグループホームである。利用者一人ひとりがその人らしく過ごせるよう取り組み、ホーム内には静かなゆったりとした空気が流れている。法人の事業所合同の夏祭りや子供達とのふれあい教室等の行事、地域の祭り等で、地域の人々との交流がなされている。毎月研修を行い職員の介護、医療技術の向上に力を入れ、職員は笑顔で声掛けて利用者一人ひとりの持てる力を発揮できるよう熱心に取り組んでいる。時には外出に出かけたり、庭に出て外気に触れながら食事を楽しむ等の工夫も取り入れて、利用者の日々の暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所の理念を掲示して、職員皆で理念を共有している。	理念の中の「その人らしく」を職員間で共有できるよう話し合い、利用者が地域と繋がりを持っていきたいと暮らせるよう、より良い介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校からボランティアに来てくれたり、地域の神社の秋祭りでは職員も一緒にお神輿を担がせて頂いたり、地域との交流を図っています。夏祭りやふれあい教室では地元の方をお招きし、利用者の方と一緒にイベントを楽しんで頂いています。	近隣の農家の人と馴染みの関係ができていて散歩中に出会って野菜をもらうこともある。地域の行事や事業所主催のイベントへの参加は地域の子供達とふれあう機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が実施している介護者教室にて、地域の方や家族様を対象に認知症講座を開催し、地域での認知症理解の広報に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者の家族の方、地域包括センターの方などに参加していただき、グループホームの現状の報告や、問題点などを話し合い、意見を聞きながら、サービスの向上に努めている。	参加者が集まりやすいように、曜日を変えたり、家族会の後で行うなど工夫している。会議に出された意見は職員間で情報を共有してサービスの向上に活かせるよう務めている。	防災などの、地域に関する話題など、時にはテーマを設けて地域の住民や、自治会の意見を集める試みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会への参加以外では、制度やサービスに関する問題点など分からないことがあれば、相談させていただいています。	運営推進会議の報告や写真入の行事予定表等を持参して、日頃の事業所の様子を伝え、連携に繋げるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	歩行不安定な方や徘徊される方など、チャイムなどを利用しながら見守りを強化したり、気分転換をはかったりして、安全に過ごして頂けるようにしている。	「目配り、気配り、声かけ、気づき」を心掛け利用者を不安にさせない声かけに取り組んでいる。心身が不安定な利用者にはさりげなく職員がついて見守るよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会に参加したり、虐待防止のためにも、スタッフのストレスを溜めないよう、問題があればすぐに話し合う機会を持つよう心掛けている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後を見据えて勉強会等で制度の理解を職員全体で深めていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族様が納得していただけるよう十分な時間をかけて説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねている。改定等があった際もその都度、変更点などのように変わるのか説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月ごとに家族へ利用者の様子などを書いて送っている。面会に来られた際なども日頃の様子や、要望などを話している。2か月に一度運営推進委員会を行い、家族様や関係各所に参加を募っている。委員会で出された意見等はスタッフ会議で取り上げ、職員間でも共有しサービスの向上に繋げている。	運営推進会議や家族会等、意見を出せる場を設けている。各家族に毎月担当職員が手紙を出し利用者の情報を提供し、訪問時に家族が話しやすい関係ができるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を行い、利用者に関することや業務のことなど話し合っており、職員の意見、提案を出し合っている。日々起こる問題なども申し送りの時間などに話し合っている。	毎月のスタッフ会議、朝のミーティング時以外にも機会があれば、サービス向上に繋がる意見や提案を出し合っており、利用者が楽しめるよう、新人の職員の発案で、昔ばなしの紙芝居を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、職員個々の反省や目標、やりたい事などを聞いて、それに対応して向上心を持ってもらえるように就労環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの部署内でも勉強会を行い、また法人内外で行われる講座や研修に職員が参加して技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をもてるように努めている。同法人ないでの相互の連携強化やサービスの向上が実現できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の面談にて、ご本人、家族から現在の身体状況や病気のこと、グループホームでの生活で望まれること、気をつけてほしいこと等を聞き取りを行って、入居してからも安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の状況を把握し、家族様の気持ちや要望にも傾聴し受け止めることで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様からの聞き取りから、求められるニーズを導き出し、それに応じたサービスを他サービスも含めて考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務のみならず、利用者様と生活を共にする立場で接することで、暮らしの中の問題点の抽出や信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や連絡事項のある際など、日頃から利用者様の様子や状態の報告等をこまめに行い、家族様からアドバイスや意見を頂くことで、共に支えあっていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間に制限なくいつでも受け入れており、家族以外の近所の方や友人にも足を運んで頂きやすいようにしている。	手紙や年賀状の宛名書きを手助けし、便りの交換で馴染みの人との関係を継続している。ドライブの際に利用者の以前の住まいや馴染みの場所を訪れることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や趣味を把握した上で座って頂く座席やグループ分けを行い、利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行えるよう支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、その後の様子確認や相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や口調の変化を見逃さず観察し、声掛けを工夫しながらなるべく利用者様本人から希望や意向を聞き出せられるよう努めている。その日の発言や様子など生活シートに書き、把握に努めている。	利用者それぞれに担当者を決め、食事の時やソファでくつろいでいる時に隣に座り、利用者の思いが聞けるような関わりを心掛けている。家族からも利用者のことを聞く機会を持ち、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様からの聞き取り情報の他、生活歴シートや基本情報を基に本人のこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活シートを用いてその人の一日の行動パターンや言動を把握し、日々の気持ちの変化や体調の変化に素早く気付けるようにしている。その中で本人の出来る事や問題点を抽出して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく楽しみを持って生活を送って頂けるよう、本人や家族様の思いや意向を聞き、課題となる事を職員間で話し合い、介護計画の作成に活かしている。	利用者の言葉や日頃の様子を記録した生活シートの内容を元に、家族にも相談しながら、一人ひとりの持てる力を活かせる介護計画を作成し、毎月利用者3名ずつの計画を見直して検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれについて、生活の様子や心身の状況、課題に対するケアの実践などを随時記録している。ミーティングやスタッフ会議等でモニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に柔軟に対応できるよう、施設看護師や訪問看護、主治医と随時連絡を取り合い連携体制の強化に努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や老人会によるボランティアや警察や消防、教育機関などと協力し、安全に生活を送って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する主治医にお願いしている。利用者の健康状態などを報告し、連携を図っている。必要時には専門病院への通院の援助もしている。	利用者の希望する、かかりつけ医と連携を取り、以前からの、かかりつけ医の往診を受けている利用者もいる。事業所の協力医療機関では月2回の往診を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や訪問看護師と随時連携を取り、日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際など、入院前の様子や生活の様子、既往歴など速やかに伝達、報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人様、家族様などお元気な時から話し合いを行うようにしている。本人、家族の意向を踏まえた上で、医師、看護師、介護職員が連携し、チームとして支援に取り組んでいる。実際のそのような状況になった際には話し合いをすすめ、再確認を行っている。	ホームでの看とりは行わない方針ではあるが、運営推進会議の議題にも取り上げ検討している。本人、家族の意向を聞いて十分話し合い、医師、看護師、職員のチームで支援に取り組み、必要時には法人の特別養護老人ホームへの入所支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の訓練や、疾病に応じた初期対応の勉強会を行っている。急変時の対応に備え、職員でもその時の応じた対応の仕方なども話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により避難訓練や救命救急の講習会を受けている。	災害時の昼、夜のマニュアルを作成し、全職員で共有している。同じ敷地内にある同法人の特別養護老人ホームが災害時の地域の避難場所になっており、特養施設と合同で避難訓練をし、備蓄もしている。	地域住民や消防署の協力が得られるように運営推進会議にも取り上げるなどして、防災教室や地域住民を交えた避難訓練等で災害に備えることができることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わること、排泄のことなどは、その人にしか聞かれないように場所を選んだり、小さい声で話したり気をつけている。	尊厳を損ねるような不適切な言葉掛けが無いように職員同士が互いに気をつけ、日常の業務の中で不適切と思われる言葉掛がみられた時には注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつを食いたい物を聞いたり、誕生日のプレゼントなどほしい物を聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調により、希望にそって1日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみのお手伝いや、入浴時の着替え、翌日に着る服などは本人の希望を聞きながら準備させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の能力に応じて食事の準備や後片付けを手伝ってもらっている。 誕生日にはリクエストを聞いてその人の好きな物を提供している。外食支援やテイクアウトなどの支援も行っている。	天気の良い日は、事業所の庭にテーブルと椅子を出し、焼きそばや、ホットケーキを作ったりして、楽しめる工夫がされている。餃子の皮包みや食器の片付けなど、利用者に応じた力を発揮できるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分の摂取量を毎日チェックしており、少ない方には多く摂ってもらえるように促している。日頃の食事の摂取量を把握して食事量が減ってきていないかなど変化に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力、口腔の状態に応じて口腔ケアの支援を行っている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排便の状況をチェックを行い、排泄パターンを把握している。誘導が必要な方には声かけを行い、トイレでの排泄を促している。頻尿の方などは医師とも相談している。	チェック表で排泄パターンを把握して、一人ひとりに合った支援を行っている。排泄の自立を保てるよう、夜間は必要な利用者にはポータブルトイレも使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の状況をチェックしている。便秘予防のため、毎日、乳性飲料やヨーグルトなどを提供している。体操などの運動もしてもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って入浴してもらうように支援している。	入浴はプライベートな時間として、ゆったりと自分のペースで入浴することができるよう支援している。入浴を嫌がる場合は声掛けの工夫で入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方それぞれ、好みに部屋で過ごしてもらい、眠くなったら寝てもらおうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴の一覧と一緒に服薬内容も記載している。個人ファイルに服用薬品名カードを閉じている。薬の変更などあった際は申し送りのノートに記載し、職員全員が周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて一緒に家事などを行い、役割を持ってもらうことでやりがいに繋がっている。レクリエーションや毎月の行事に参加してもらい、楽しみや気分転換をかり生活に張りを持ってもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったり、車でドライブに出かけたり職員が付き添って行っている。また、家族様にも協力していただき、買い物や食事などに連れて行ってもらっている。	事業所の周り是一片の野菜畑なので、季節を感じながら、職員と散歩に出かけている。近くのスーパーで買い物をすることも。桜の季節には車で出かけ、みんなでお弁当を広げることもある。	高齢化に伴い、外出が困難になってきた利用者もいるので、利用者に応じた外出支援の工夫を期待する。

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望の応じて金銭の所持をしてもらっている。希望があれば職員付添にて、又は職員が買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれた際は代わりに投函したり、本人、家族の希望があれば電話をつないだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルには新聞や雑誌を置き、玄関にはお花や季節の飾り物を置いたり、日常生活の中で季節を感じて頂けるよう工夫をしている。	共同空間の南向きの窓は日光が眩しくないように時間帯に合わせてカーテンやブラインドで加減をしている。居室と居間の間に手すりのついた長い廊下があり、廊下の行き来が生活の中でのリハビリとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士、居室を行き来したり、リビングや玄関フロアでも自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるもの、写真や人形など見ていて落ち着く物などを持ってきてもらっている。	居室の入り口には木製の表札と利用者の好みに応じた「のれん」がかけられている。広いクローゼットがあり、室内はゆったりと落ちつく空間となっている。利用者の作品や写真等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者のできる事、わかる事を活かし自立できるよう工夫している。		